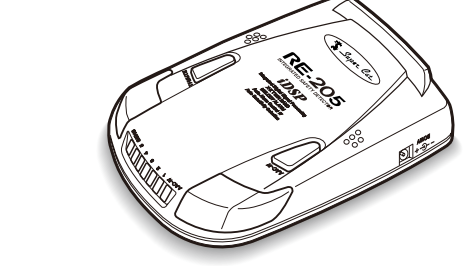


超小型高感度レーダー探知機

RE-205

取扱説明書



12V車専用

このたびは、スーパーキャットのレーダー探知機をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。本機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。

**注意**

この取扱説明書をよくお読みのうえ、安全運転のよきパートナーとして正しくお使いください。
なお、お読みになられたあとも、いつでも見られる場所に大切に保管してください。

コピテル工業株式会社
〒108-0023 東京都港区芝浦4-12-33 6SS0548

安全上のご注意

ご使用の前に、この「安全上のご注意」をよくお読みのうえ、正しくお使いください。ここに記載された注意事項は、製品を正しくお使いいただき、使用するかたへの危害や損害を未然に防止するためのものです。安全に関する重大な内容ですので、必ず守ってください。また、注意事項は危害や損害の大きさを明確にするために、誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、次の表示で区分し、説明しています。

- **警告**：この表示は、「死亡または重傷などを負う可能性が想定される」内容です。
- **注意**：この表示は、「傷害を負う可能性または物的損害のみが発生する可能性が想定される」内容です。

絵表示について

-  この記号は、気をつけていただきたい「注意喚起」内容です。
-  この記号は、してはいけない「禁止」内容です。
-  この記号は、必ず実行していただく「強制」内容です。

**注意**

 水をつけたり、水をかけない。また、ぬれた手で操作しない…火災や感電、故障の原因となります。

 運転中は絶対に操作しない…わき見運転は重大事故の原因となります。また、設定は停車中に、パーキングブレーキを確実にかけた状態で行ってください。

 穴やすき間にピンや針金などの金属を入れない…感電や故障の原因となります。

**警告**

 機器本体および付属品を改造しない…火災や感電、故障の原因となります。

 取り付けは、運転や視界の妨げにならない場所、また、自動車の機能(ブレーキ、ハンドル等)の妨げにならない場所に取り付ける…誤った取り付けは、交通事故の原因となります。

 万一、キャビネットを破損した場合は、すぐにシガープラグを抜く…そのまま使用すると火災や感電、故障の原因となります。

 警報したときに慌ててブレーキをかけたりしない…走行中に急ブレーキをかけたりすると大変危険です。

 バッテリーに直接接続しない…火災や感電、故障の原因となります。シガープラグコードを使用せずに電源をとる場合は、別売のOP-4をご使用ください。

 サービスマン以外の人は、絶対に機器本体および付属品を分解したり、修理しない…感電や故障の原因となります。内部の点検や調整、修理は販売店にご依頼ください。

 電源コードを傷つけたり、無理に曲げたり、加工しない。また、電源コードが傷んだら使用しない…感電やショートによる発火の原因となります。

 シガーライターソケットやシガープラグの汚れはよく拭く…接触不良を起こして火災の原因となります。

 シガーライターソケットは単独で使う…タコ足配線や分岐して接続すると、異常加熱や発火の原因となります。

 シガープラグは確実に差し込む…接触不良を起こして火災の原因となります。

 12V車以外では使用しない…火災や感電、故障の原因となります。また、ソケットの極性にご注意ください。本機はマイナスアース車専用です。

 ぬれた手でシガープラグの抜き差しをしない…火災や感電、故障の原因となります。

 煙が出ている、変な臭いがあるなど、異常な状態のまま使用しない…発火の恐れがあります。すぐにシガープラグを抜いて、販売店に修理をご依頼ください。

 助手席エアバックの近くに取り付けたり、配線をしていない…万一のとき動作したエアバックで本体が飛ばされ、事故やケガの原因となります。また、電源コードが妨げとなり、エアバックが正常に動作しないことがあります。

 取り付けは確実に行う…落ちたりして、ケガの原因となります。

 車から離れるときは、電源が切れていることを確認する…シガーライターソケットに常時、電源が供給される車種があります。また、長期間ご使用にならないときはシガープラグを抜いてください。

 シガープラグコードを抜くときは、電源コードを引っ張らない…コードに傷がついて、感電やショートによる発火の原因となります。必ずシガープラグを持って抜いてください。

 お手入れの際は、シガープラグを抜く…感電の原因となります。

ご使用にあたって

使用上のご注意

■一部の車種に採用されている金属コーティングの断熱ガラスは、電波の透過率が低いため、探知距離が短くなることがあります。

動作温度範囲について

■本機は、-20℃～+85℃まで正常な動作が保証されています。夏、冬とも安心してご使用ください。

付属品

- ご使用前に付属品をお確かめください。
- シガープラグコード(1)

●サンバイザークリップ(1)

●コードクリップセット(1)

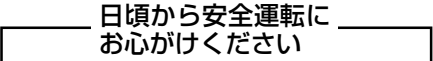
●取扱説明書

●保証書(1)

●ご相談窓口一覧(1)

別売品のお知らせ

電源直結コードOP-4(約4m)
1,500円(税別)
シガーライターソケットを使わずに、アクセサリ系端子から直接電源をとることができます。

**日頃から安全運転にお心がけください**

このレーダー探知機は、取締りレーダー波の存在を前もってお知らせする受信機です。レーダー方式以外の赤外線や光電管式、ワイヤー式などのスピード測定装置には反応しません。また、電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。「いつも鳴るから」と安心せずに注意してください。
※ 探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

本機使用中のスピード違反に関しては、一切の責任を負いかねます。日頃からの安全運転をお心掛けください。

特長

- 1 iDSP※1**
統合的デジタル信号処理技術(iデジタル)により、超高精度識別を実現。
※1…integrated Digital Signal Processing Technologyの略。
- ① 新Hシステム識別**
通常波と区別して、音(電子音)&光(アラームランプ/シグナルメーター)でお知らせ。
- ② ステルス識別**
通常波と区別して、音(電子音)&光(アラームランプ/シグナルメーター)でお知らせ。
- ③ GPS排除**
カーナビのモレ電波を識別、誤警報を排除、さらに温度変化などによる周波数スレを自動補正。
[特許 第3044004号]
- 2 ULTRA/ウルトラ感度**
高速道路などの走行に適したウルトラ感度。Wスーパーヘテロダイン…スィープオシレータ式超高精度受信方式。[特許 第1720227号]
X・Kツインバンド…Xバンド/Kバンドの2バンド対応。後方受信…後方からのレーダー波も確実にキャッチ。

- 3 アラーム機能**

① メロディアラーム…ト「エレクトリカルパレード」のディズニーメロディで警報。

② Wアラーム方式…音(メロディ/電子音)&光(アラームランプ/シグナルメーター)のダブルで警報。

③ 接近テンポアップシステム…取締り機に近づくに従い、電子音がテンポアップ。
- 4 自動制御**

① ASS※2/最適感度選択…走行状況に応じて、最適な受信感度を自動的に選択。[特許 第3051676号]
※2…Auto Sensitivity Selectionの略。

② AAC-IV※3/不要警報カット…自動ドアなど、低速走行中や停車中のムダな警報を自動的にカット。
※3…Auto Alarm Control IVの略。

③ オートディマ…ランプ点灯から、約30秒で自動的にライトダウン。

④ オートクワイアット…アラームの鳴り始めから、約30秒で自動的にボリュームダウン。

5 その他

- ・ミュートボタン

各部の名称と働き

AAC-IVランプ [AAC-IV]
電源が入ると点灯し、レーダー探知機警報の状態をランプの色で表示します。

シグナルメーター [1～5]
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点灯数が増えます。右端に達するとすべてが点滅します。

AAC-IVボタン [AAC-IV]
AAC-IVシステムの設定／解除ができます。

シガープラグコード

DCプラグ

電源コード(約3m)

B端子

先端キャップ

マイナス端子

アラームランプ
受信している取締りレーダー波の強さに応じて点滅速度が変化します。

感度ランプ [SENS]
受信感度をランプの色で表示します。

テスト&ミュートボタン [T/MUTE]
警報機能の確認や、ミュート機能を使うときに押します。

音量ツマミ [VOL]
警報音の音量調節ができます。

警報音セレクトスイッチ [SOUND A M]
取締りレーダー波受信時の警報音が選べます。

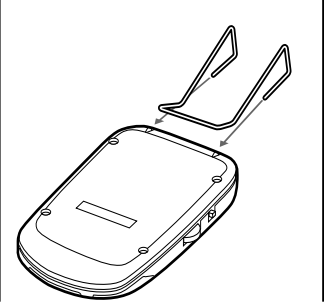
アンテナ(前面)
取締りレーダー波を受信します。

スピーカー

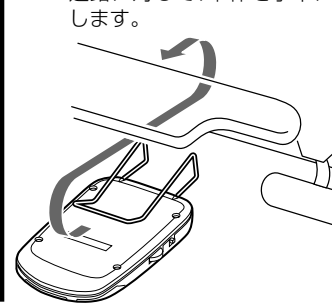
DCジャック [DC12V]
付属のシガープラグコードを接続します。(12V車専用)

本体を取り付ける

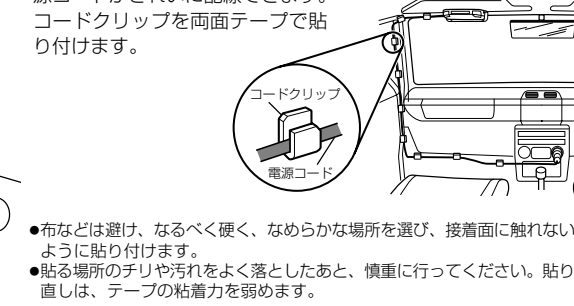
1 付属のサンバイザークリップを本体に取り付ける



2 助手席側のサンバイザーに挟み込む



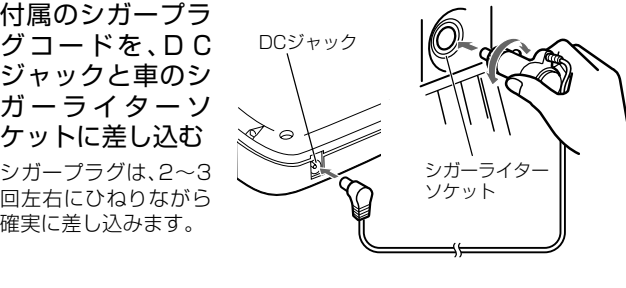
コードクリップの使いかた



- 布などは避け、なるべく硬く、なめらかな場所を選び、接着面に触れないように貼り付けます。
- 貼る場所のチリや汚れをよく落としたあと、慎重に行ってください。貼り直しは、テープの粘着力を弱めます。

電源について

12V(マイナスアース)車専用です。DC12V以外では使用できません。

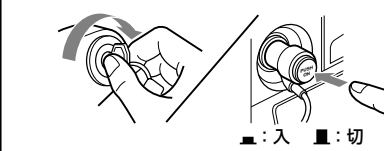


- シガープラグコードは、必ず付属のものををご使用ください。
- シガープラグ内部のヒューズが切れた場合は、同じ容量(1A)の新しいヒューズと交換してください。また、交換してもすぐにヒューズが切れる場合は、使用を中止し、シガープラグコードを抜いてお買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部にご相談ください。
- シガープラグ内部には、ヒューズとスプリングが入っています。ヒューズ交換の際は、部品の紛失に注意し、順序を合わせて入れてください。
- 一部の車種においては、シガープラグの形状が合わないことがあります。その場合は、別売のOP-4を使用してください。
- 本機をバッテリーなどと直接接続すると故障の原因となりますので、絶対におやめください。

音量/警報音を設定する

1 電源を入れる

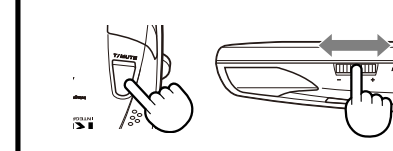
車のエンジンを始動し、シガープラグの電源スイッチを押します。



ターン・オン・ビーブが鳴り、AAC-IVランプと感度ランプが点灯します。
※点灯しない場合は、シガープラグが確実に差し込まれているか、また、汚れなどで接触不良になっていないか確認してください。

2 音量を調節する

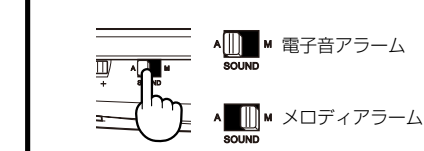
テスト&ミュートボタンを押しながら、音量ツマミを回します。



押している間はテストモードとなり、警報音が鳴り続けます。
テスト&ミュートボタンを押す前から警報機能が働く場合は、近くで発信されている、取締りレーダー波と同じ電波を受信しているためです。この状態でボタンを押すと、ミュート機能が働き、警報音が止まります。

3 警報音を選ぶ

警報音セレクトボタンで切り換えます。



選択した警報音は、テスト&ミュートボタンを押すと確認できます。
メロディアラームに設定すると「エレクトリカルパレード」のメロディで警報します。

警報機能について

本機は、Wアラーム方式と接近テンポアップシステムの採用により、取締りレーダー波の存在をより確実に伝えていきます。

Wアラーム方式

音(メロディ/電子音)と光(アラームランプ/シグナルメーター)のダブルで警報します。

iDSPについて

本機は、iDSP／統合的デジタル信号処理技術(integrated Digital Signal Processing Technology)により、ステルス型取締り機の「一瞬で強い電波」や、新Hシステムの「種類の異なる電波」に対しては、ただ単に警報するだけでなく、通常の警報音とは違うニアミスアラーム(400)ピロップピロップ…)でお知らせします。[ステルス識別][新Hシステム識別]

また、カーナビからのGPSのモレ電波など妨害電波は、的確に識別し、誤警報を排除しています。さらに、温度変化などによる周波数ズレを自動補正しています。[GPS排除：特許 第3044004号]

- iDSPは解除できません。
- iDSPはステルス型の取締り機に対して完全対応というわけではありません。また、取締りには電波を使用しない光電管式などもありますので、先頭を走行する際はくれぐれもご注意ください。

ステルスについて

ステルス型取締り機は他の取締り機と同じ電波を使用していますが、事前に探知(受信)されないようにするため、待機中は電波を発射せず、必要なときに短時間強い電波を発射して、速度の測定ができる狙い撃ちの取締り機です。従来機では、先頭を走行せずに2番手以降で走行していても、一瞬しか警報されません。

取締り機(電波の種類)	シグナルメーター	警報音
通常​の取締り機 (常時発射されている連続波)	左から右に点灯数が増えます。 → → → → →	選択した警報音が鳴ります。電子音は断続音から連続音に変化します。
ステルス型取締り機 (必要なときのみ、短時間発射される狙い撃ち的な連続波)	いきなり4つ以上点灯します。 → → → → →	ニアミスアラーム(ピロップピロップピロップ…)が鳴ります。
新Hシステム<新型オービス> (常時発射されている、種類の異なる電波)	段階的に点灯数が増え、3つ以上で新Hシステムを識別します。 → → → → →	選択した警報音で鳴りはじめ、新Hシステムを識別するとニアミスアラームが鳴ります。

- シグナルメーターの点灯が右端に達すると、すべてが点滅します。
- ニアミスアラームは、ミュート機能により、一時的に消すこともできます。
- 通常の電波を受信した場合でも、周囲の状況などにより、ニアミスアラームが鳴ることがあります。

便利な機能について

ミュート機能

警報中にテスト&ミュートボタンを押すと、受信中の電波がなくなるまで、警報音を一時的に消すことができます。取締りレーダー波の発信源が確認できたときに使います。

ターン・オン・ビーブ

電源を入れたとき、確認音が鳴り、電源が入ったことをお知らせします。

ASS機能について

AAC-IV が「入」(AAC-IV ランプが赤色か緑色) のとき、設定したエンジンの回転数以上での走行時間に応じて、最適な受信感度を自動的に選択します。[ASS/最適感度選択：特許 第3051676号]

車の状態	 停車	 走行中(設定したエンジンの回転数以上の走行中)	 停車
AAC-IVランプ(警報状態)	赤色 → 警報しない	緑色 → [警報する]	赤色 → 警報しない
感度モード/ランプ点灯色	赤色 → カットダウンモード	約20秒 → 約120秒 → それ以降 → [ビッピッ] → オレンジ色 → 緑色 → スーパー感度モード → ウルトラ感度モード	赤色 → カットダウンモード

スーパー感度からウルトラ感度へ自動的に変化するとき、「ビッピッ」という確認音が鳴ります。

接近テンポアップシステム

各警報は、取締りレーダー波発信源への接近に応じて変化します。

取締りレーダー波発信源との距離	
電子音アラーム	断続音から連続音に変化します。
アラームランプ	点滅速度が変化します。 
シグナルメーター	左から右へ点灯数が増し、右端に達したあとに、すべてが点滅します。 → → → → →

- メロディアラームはテンポアップしません。
- 警報が約30秒間続くと、警報音が小さくなり、ランプ類も暗くなります。(オートクワイアット/ディマー機能)

新Hシステムについて

新Hシステム(新型オービス)のスピード測定装置は、取締りレーダー波と同じ周波数で、違う種類の電波を使用しているため、探知距離が多少短くなることがあります。このシステムでは、事前に「速度オーバー」、「速度超過」などの警告が表示板に出ますので、これらの警告を見かけたら注意が必要です。

AAC-IVシステムの使いかた

AAC-IVのしくみと働き

- 車のオルタネーター(発電機)から出ているパルスノイズの周波数変化でエンジンの回転数を算出し、設定したエンジンの回転数以下で走行しているときや停車中の警報音をキャンセルします。
- ご使用になる車種によっては、パルスノイズの情報が少なく、AAC-IVが正常に動かないことがあります。このようなときは、AAC-IVを解除してご使用ください。
 - 通常、エアコンをお使いの場合は、エアコンを入れた状態で設定してください。
 - 車のランプ類やワイパーなどを使ったときに、エンジンの回転数が変化する場合は、それらを使用した状態で設定し直してください。
 - A/T車でAAC-IVを使用する場合は、下り坂などでアクセルを戻すと、スピードが出ていてもエンジンの回転数が設定値以下となって、警報音が鳴らないことがあります。
 - 一部のA/T車では、アイドリング状態で、シフトがドライブ(D)のときは正常に動作するのに、ニュートラル(N)にするとAAC-IVランプが緑色に点灯することがあります。このようなときは、エンジンの回転数を少し高めに設定してください。

- 電源を入れる
車のエンジンを始動し、シガープラグの電源スイッチを押します。



■：入 ■：切

AAC-IVランプが赤色か緑色に点灯し、ターン・オン・ビーブが鳴ります。

AAC-IVランプがオレンジ色に点灯するときは、AAC-IVが解除されています。このようなときは、AAC-IVランプが赤色か緑色に点灯するまで、AAC-IVボタンを押し続けてください。

「ポポッ ビー」と鳴り赤色か緑色の点灯に変わります。

- AAC-IVが動くエンジンの回転数を設定する
アクセルペダルを軽く踏み、希望の回転数でAAC-IVボタンを押します。(アイドリング状態より200～300回転高いところを目安に設定します)



「ポポッ」と鳴り、設定されます。

※ AAC-IVランプがオレンジ色のときは設定できません。エラー音「ポポッ」が鳴ります。この場合はACC-IVボタンを押し続け、ACC-IVが動く状態(AAC-IVランプが赤色か緑色に点灯)にしてから、回転数の設定を行ってください。

ご注意

- エンジンの回転数は、AAC-IVが法定速度以下で動くように設定してください。
- AAC-IVの働きによりAAC-IVランプが赤色で点灯中は取締りレーダー波を受信しても警報しません。

- 動作を確認する
設定した回転数以上にすればらくすると、AAC-IVランプが赤色から緑色の点灯に変わります。



警報許可⇄警報禁止は、数秒後に切り変わります。

警告

運転中は絶対に操作しないでください。わき見運転は重大事故の原因となります。本機の設定・操作をするときは、停車中にパーキングブレーキをかけた状態で行ってください。

回転数を変更するには

AAC-IVランプが赤色か緑色に点灯中に、希望の回転数にして、AAC-IVボタンを押します。

「ポポッ」と鳴り、設定値が変更されます。

解除するには

AAC-IVランプがオレンジ色に点灯するまで、AAC-IVボタンを押し続けます。「ポポッ ビー」と鳴り、AAC-IVが解除されます。

AAC-IVランプの点灯色について

点灯色で、動作状態がわかります。

点灯色	AAC-IV	レーダー波受信時の警報音
赤色	動作中	鳴らない
緑色		鳴る
オレンジ色	解除	鳴る

受信しにくい場合

電波の発射方法や周囲の環境、条件などにより、取締りレーダー波を受信しにくいことがあります。

- 前に走行している車(とくに大型車)がある場合や、コーナー、坂道では、電波が遮断され、探知距離が短くなることがあります。スピードの出やすい下り坂では、とくにご注意ください。
- A/T車でAAC-IVをお使いの場合、走行中にアクセルペダルを戻すと、極端にエンジンの回転数が下がります。とくに下り坂では、スピードが出ていてもエンジンの回転数が下がり、AAC-IVが働いて、警報音が鳴らないことがありますので、注意してください。



〔前に走行中の車がある場合〕



〔下り坂〕

- 対象の車が近くに来るまで、電波を発射しない狙い撃ち的な取締りができるステルス型のスピード測定装置があります。

電波式の自動ドアや、信号機の近くに設置されている車輛通過計測機などは、取締りレーダー波と同じ電波を使用しているため、反応するのは避けられません。[いつも鳴るから]と安心せずに注意してください。

取締りのミニ知識

本機と、取締りの方法や種類をよくつかんで、上手にご使用ください。制限速度を守り、安全運転を心がけることが大切です。

スピード違反の取締り方法

大きく分けて3つの方法があります。

- 追走して測定する方法(追尾方式)
指針を固定できるスピードメーターを搭載している白バイやパトカーで、対象の車を追走して速度を測ります。

- 距離と時間で算出する方法(光電管式、ループコイル式)
一定区間を通過するのにかかる時間から速度を算出します。

測定区間の始めと終わりに設置するセンサーには、赤外線や埋め込みの磁気スイッチなどが使われています。

- 電波を使って算出する方法(レーダー式)
電波を対象の車に向けて発射し、その反射波の周波数変化(ドップラー効果)で速度を算出します。

現在、スピード違反の取締りには、この方法が多く採用されています。この方法は、歴史も古く、種類、台数が多いことから、今後も取締りの主流となると考えられます。

Kバンドについて

Kバンドは、米国ですでに使用されている取締りレーダー波の周波数で、日本国内でも採用される可能性があります。本機は、現在国内で使用されているKバンドに加え、Kバンドも受信できるX・Kツインバンド対応です。

取締りレーダー波について

取締りレーダー波は、発射するときの角度や装置の種類によって性質が異なります。

定置式
人が測定装置を道路際に設置して行います。

取締りレーダー波は、直進性が強いため、発射角度が浅いほど、探知しやすくなります。

自動速度取締り機(オービスⅢ)
速度の測定と証拠写真の撮影を自動的に行います。

移動式
測定装置をパトカーに搭載して、移動しながら測定を行います。

本機はレーダー方式のスピード測定装置に対応します。
※探知距離は、走行環境、測定条件などにより変わることがあります。

故障かな?と思ったら

修理をご依頼になる前に、もう1度次のことをご確認ください。それでも異常や故障と思われるときは、お買い上げの販売店、または弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にご相談ください。

症状	チェック項目
電源が入らない	- シガープラグコードが外れていませんか。 - 電源ボタンが押されていますか。 - シガーライターソケットの内部が汚れて、接触不良を起していませんか。シガープラグを2、3回左右にひねりながら差し込み直してください。 - シガープラグ内部のヒューズが切れていませんか。切れていた場合は、新しいヒューズと交換してください。
エンジンを止めて、イグニッションキーを抜いても、電源が切れない	シガーライターソケットの電源が、エンジンの始動/停止と連動して入/切しない車があります。このような車では、エンジンを止めても、シガーライターソケットに電源が供給され続けますので、本体の電源ボタンで電源を切ってください。
反応(警報)しない	- 電源が入っていましたか。AAC-IVランプの点灯を確認してください。 - 警報機能が正しく働きますか。テスト&ミュートボタンを押して確認してください。 - AAC-IVランプが緑色で点灯していましたか。赤色で点灯していた場合は警報しません。AAC-IVを適切なエンジン回転数に設定し直してください。 - 取締りレーダー波が発射されていなかったか。計測する瞬間だけ電波を発射するステルス型など、取締り準備中あるいは終了後などで、スピード測定装置から取締りレーダー波が発射されていないことがあります。(とくにオービスⅢではよくあります。) - 取締りが「レーダー方式」で行われていなかったか。
取締りもしないのに、警報機能が働く	- 取締りレーダー波と同じ電波がほかでも使用されています。それらの電波を受信すると、警報機能が働くことがありますが、故障ではありませんのでご了承ください。 <取締りレーダー波と同じ電波を使用している主な機器> 電波式の自動ドア、防犯センサー 信号機の近くに設置されている車輛通過計測機 NTTのマイクロウェブ通信回線の一部 気象用レーダー、航空レーダーの一部 他のレーダー探知機の一部 - まれに他の無線機の影響を受けることがあります。その場合は取り付け位置を変えてみてください。
AAC-IVが正常に動かない	A/T車でお使いの場合、アイドリング状態で、シフトポジションがドライブ(D)のときは正常に動作(AAC-IVランプが赤色に点灯)するが、ニュートラル(N)にするとAAC-IVランプが緑色に点灯してしまう車種がまれにあります。このようなときは、エンジンの回転数を少し高めに設定し直してみてください。

※正常に受信するかどうかの確認は、電波式の自動ドアなどで行うことができます。

アフターサービスについて

- 保証書(別に添付してあります)
保証書は、必ず「販売店・お買い上げ年月日」をご確認のうえ、保証内容をよくお読みになって、大切に保管してください。
- 保証期間
お買い上げの日から1年間です。
- 対象部分
機器本体(消耗部品を除く)
- 修理をご依頼されるとき
「故障かな?と思ったら」で確認しても、なお異常があると思われるときは、使用車名(車種)、機種名(品番)、氏名、住所、電話番号、購入年月日、保証書の有無と故障状況をご連絡ください。
 - 保証期間中のとき
保証書裏面の「故障内容記入欄」にご記入いただき、お買い上げの販売店まで保証書とともに、機器本体とシガープラグコードをご持参ください。保証書の内容にしたがって修理いたします。
 - 保証期間が過ぎているとき
ます、お買い上げの販売店にご相談ください。修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理いたします。
- アフターサービス等についてご不明の点は
お買い上げの販売店、または最寄りの弊社営業所・サービス部(添付の一覧表をご参照願います)にお問い合わせください。

仕様

電源電圧	：DC12V(シガープラグ入力電圧)
消費電流	：待機時85mA以下/最大150mA以下
受信方式	：スーパオシレーター式ダブルスーパーヘテロダイン方式
受信周波数	：Xバンド、Kバンド
動作温度範囲	：-20℃～+85℃
本体外形寸法	：59(W)×20(H)×90(D)mm
本体重量	：74g

※製品改良のため、仕様および外観の一部を予告なく変更することがあります。あらかじめご了承ください。